



(令和元年第3号)

7月1日より鹿児島地方にあの86水害に匹敵する大豪雨が発生すると3日間程大変な全国ニュースでしたが幸いにも川の決壊も、大規模がけ崩れもなくよかったです。

○6月16日 大石

西山レポートありがとうございます。

近い将来に自分のパソコンやホームページを使えなくなっても自分の軌跡(回憶思い出)が後の人に残るようユーチューブやその他に纏めています。

ブログやフェイスブックなどのSNSはほっておくと消えてしまうのでは？

○ 西山アンサー

見ることがなくても残しておきたいものです

80年代、シャープの書院で書いた原稿で、うまく、パソコンに引っ越しができなかったものは、見たいと思って見られないハードコピーは、どこに紛れ込んでいるのか分からない。

いつもバックアップには神経質になっています。それを役立てたありませんが...

○大石さん

残せるだけ、残してください。だれでもできることではありません。

将来、必ず、残してよかったというときが訪れます。

○随分と楽しそうな中国漫遊ですね

客室乗務員の割烹着

どこぞのレストランらしき所の和服国共合作の西安、水墨画の世界の桂林いずれも行ったことはありません。

急速に変化する中国、歴史の変遷早送りの歴史を見る思いです。

○大石くん

私が中国に行ったのは天安門事件(1989)が落ち着いてすぐの頃だったので、多分52, 3歳だったと思います。

私にとっては初めての海外旅行だったのですが、広州の作業服工場見学の名目で、中身は旅行そのものでした。

上海に一泊し、広州へ行って工場見学と物見遊山、国際列車で香港へ行き2泊しました。

上海の豫園では、私たちがバスを降りると、人民服を着たご老人たちが私たち一行を珍しそうに見ていたのが印象に残っています。

私は動画などはないので、写真でも整理したら、当時の手帳などと照らし合わせながら、ブログに旅行記でも書ければいいなと思っています。

今回の大石くんの動画は少し時間的にも中国が落ち着いてきていたのでしょうか、ホテルのグレードなど相当にアップしているようですね。

今回も太極拳始め、建物、演芸、食など盛りたくさんで楽しみました。

人民服で無気力な当時の中国国民の姿を見られたとは貴重な体験しましたね。

羨ましいですね。写真是非観たいものです。

○ホテルは別世界です

商業施設と食品工場の視察で 1982 年であったと思います。

服は人民服、女性向けに電髪看板王府井の道幅は 5～6m であったと思います。

ビールを醸造している居酒屋がありました。

最近の天安門の全景はテレビでも移されませんが、7、8 年前に行ったとき、天安門の中にいくつかの建物が作られ昔のように端から端を見通せなくなっていました。

北京から瀋陽に向かう飛行機でスタッフが飴をお盆に載せて乗客に進めると現地人は両手ですくい夕方の便が着陸態勢に入るとルトを外して窓から下の街並みを覗きこんでいました。

瀋陽のホテルの部屋は DDT が撒かれていました。

訪問記は雑誌に寄稿しましたのでいずれさがして、ご報告します。

○みなさん、僕より大先輩ですね。

そんな頃に行きたかった。

その頃は勉強で東京、大阪以外は行ったことがありませんでした。 オオイシ

○おはようございます

いずれにしても中国は変化が速く広大無辺とも言えそうなくらい広い

○スマホと違い ipad だと見やすいです。ありがとうございました。

本当に良く記録して遺していますね～。そして、何時もながらの記憶力に脱帽です！

私も中国行く前に香港・マカオ（社員旅行）、H18 グアムへダイビングのライセンス取得旅行に行きましたが内容は殆ど覚えていません。

ハ期会佐多岬の旅はロケーション素晴らしいです。何時もはカメラマンの先生が変わらず穏やかに微笑んでいました。皆さんハツラツ♡して……

先生 11 月の誕生日で傘寿🎊

今日も民謡のお稽古後師匠の買い物のお供して、色んな愚痴を聞いてあげて師匠孝行でした。

生きるとは「がむしゃらではつまらない」こんな言葉を教えてくれる大石先生にめぐり逢えた自分に感謝しています。Cc で頂いた方々に宜しくお伝え下さい。 幸枝

○いつも丁寧なお返事ありがとうございます今シリーズ 3 作目（2001 雲南の春）制作中です。資料と記憶の欠落に苦戦しています。

○大石くん

以前よりまとまれば書きたいと言っていた「島津義弘 没後400年」の寄せての拙文、第一回ができました。ただこれだけでも大苦戦しましたので、第二回は書く事ができるのか、書けてもいつになるのかわかりません。（苦笑）思考力も集中力もが効タです。ご一覧ください。 クマモト タツオ

○島津義弘 没後400年シリーズに寄せて クマタツの想いその一

薩摩島津氏の誕生とそのルーツ 2016, 6, 15

令和元年の今年は島津義弘没後400年である。

平成31年だった今年の元旦、南日本新聞に「島津義弘 没後四百年」を迎えるに当たって、義弘の生涯を一年

を通して連載するとの記事が掲載された。

まさに胸躍る企画ではないか。そこでこれを機会にこれまで取り留めもなく学び楽しんできた薩摩、とりわけ島津氏の歴史について自分の想いも入れながら少しでもまとめてみようと思い立った。

郷土出身の桐野作人氏の講演「島津四兄弟」を数年前に聴講し、特にこの四兄弟に注目した私は、その著作「島津義久」も読んで更に興味は高まり、四兄弟に縁のある日置市、南さつま市、霧島市や始良市などの史跡を巡り、ブログにも多くのことを書いてきた。

四兄弟の二番目・義弘については、今も残る妙円寺詣りなどを通じて我々世代には馴染み深い。戦前の5歳の頃だったか、薩摩街道 出水筋の西田本通りに医者をしていた大叔父の医院があった。その前で祖母に手をひかれて初めて見た妙円寺詣りの勇壮さは今でも忘れることはない。♪♪明くれど閉ざす雲暗く 薄(すすき)かかるやそよがせて 嵐はさっと吹き渡り 万馬いなく声高し♪♪。この歌声は心に響くものであり、今でも時々口ずさんでいるほどだ。

そこで改めて、そもそも島津氏とは何者なのか。この際、島津氏のルーツのことから調べてみようと思った。子供の頃から、島津氏のルーツは源頼朝だと聞き覚えていて、後に知った「島津家正統系図」にもそのようにあるので何ら疑問も持たなかったが、その後、諸説があることを知った。それを知ったのは桐野作人の「膏肓記」(南日本新聞連載)が最初である。それによると、初代島津忠久は源頼朝の庶長子となっているが、野口実氏の説、現時点では、忠久の官位や通字から太宰府府官でもあった「惟宗忠康」の実子であり、後年、惟宗広言の猶子か養子になったのではないかとの説が有力である。忠久は、つまり、「惟宗忠久」→島津氏初代「島津忠久」となったというのだ。他の研究でも現在ではその説が有力とする歴史家が多い。

もう一つは島津氏発祥の地のことである。鹿児島県出水市は「島津氏」とは縁が深く十五世紀、島津家家臣「山田聖栄」の自記によれば、島津忠久は薩摩国山門院(出水市)より庄内の堀之内御所(都城市)に移った。また江戸時代の「島津家正統系図」は1186年山門院に下向「島津国史」には同年、木牟礼城に入ったとする。江戸後期の「三国名勝図会」には「島津五代(貞久)は当城にあり」としていたとする。忠久は1213年、薩摩国守護職に再任された時、薩摩統治のため「守護所」をつくったが、この守護所が木牟礼城と結び付けられ、出水にあったとの根拠にされているのではないか。また「感應寺」には初代「忠久」、二代「忠時」、三代「久経」、四代「忠宗」、五代「貞久」の墓がある。しかし、この五代の墓は島津家が建立に関わったかどうかは解らないという。

一方、宮崎県都城市はどうか。「三国名勝図会(都城の項)」では忠久が1196年日向島津院祝吉御所に入り、その後、堀之内御所へ移ったとある。

何れも忠久は出水に立ち寄った後、都城を拠点としたという。このような背景がある中で、平成20年(2008)NHKの大河ドラマ「篤姫」が放送された。

その第3回放送の後の「篤姫紀行」のコーナーで島津家初代の惟宗忠久が、守護所を置いた木牟礼城跡や忠久の墓がある鹿児島県出水市を「島津家発祥の地」として紹介した。

それに対し先に述べた島津荘のあった宮崎県都城市が、当時島津家発祥の地として観光振興を図ろうとしており、影響力の大きい大河ドラマで取り上げられなかったことに反発、当時の市長が「島津発祥の地として街づくりに取り組んでおり、放送後、市民から問い合わせがあった。

出水の歴史は否定しないが、都城の解釈にも理解を」との要望書を、NHK 宮崎放送局に提出するに至った。後日、同じ「篤姫紀行」で都城市が「島津家発祥の地」であるとの説も紹介され騒動は鎮静化したが、新聞各紙や地元テレビ局がこの騒動を取り上げ自治体の文化財担当者や有識者がコメントを求められ論争がおこなわれた。

このことに関し、鹿児島国際大学名誉教授・三木靖氏の南日本新聞に寄稿文が掲載された。それによると、源頼朝は御家人・惟宗忠久を大隅、日向国にまたがる荘園「島津荘」の下司職に任命した。

忠久は薩摩、大隅、日向、伊勢、越前、信濃、甲斐の七ヵ国で守護や多くの郡地頭に任命されたが、もっとも広

大な島津荘を本貫地にしようと「島津」姓を名乗ったとされたといっている。

このようなことから、出水市も都城市も発祥地としては、伝承に過ぎず、島津氏が史実として薩摩を本貫地として確定（発祥の地）するには至っていないという。島津氏が下向したのは初代・忠久の時代ではなく、五代・貞久からだったなど諸説があり、少なくとも忠久が下向したかどうかには疑問が残るといえる。

しかし「島津姓」が「島津荘」に由来することは、先ず間違いないだろう。

このことと、武家集団「薩摩島津氏（家）」の形成過程（島津氏が薩摩を本貫地とした基点）に分けて考えるべきではないか。と述べている。

その島津氏は一般的にどのようなイメージを持たれているのか。

島津氏、島津家に対するイメージは「中世から近世へと七百年にわたり続いた武家の名門」「島津齊彬を始め 島津に暗君なし」「西郷隆盛や大久保利通などを輩出し、江戸幕府を倒して明治維新を成し遂げた雄藩の一つ」などなどであろうか。

もう少し歴史好きな人は、「戦国時代の島津四兄弟の活躍ぶり」その中でも「関ヶ原合戦における島津義弘の敵中突破（島津の退き口）の武勇ぶり」などであろうか。

繰り返しになるが、初代惟宗忠久（～1227）が源頼朝（1147～1199）から島津荘下司職に補任されて「島津氏」を名乗って以来、明治維新（1868）を迎えるまで、島津氏が鎌倉・室町期（12世紀末～16世紀）の守護、戦国大名、近世大名として、南九州の中心的存在であり続けたことは間違いない。しかし、その支配した地域は必ずしも薩摩、大隅、日向の三ヶ国全域に及んでいたわけではない。血統、家系についても、何度か変遷を繰り返している。

現在、私もそうだが島津氏に対するイメージは近世薩摩藩による支配を裏付けるべく編纂された家譜や史書によって刷り込まれたものである可能性があるかもしれない。

歴史を正しく見る目を養うことも重要である。

参考文献、文章中に表記したものその他

川口素生著	「島津一族 無敵を誇った南九州の雄
KK ベストセラーズ	歴史人「薩摩島津家」
新名一仁編	「中世島津氏研究の最前線」

○まだ読んでいないけど（ビデオで全米オープンゴルフ観ています）文字数で分かる力作ですね。楽しみに読ませていただきます。

もう少しで「作人義久」と「高城戦記」終えます。今日「山本義弘」中公文庫 780円をアマゾンで買いました。（あの頃）に少し我が身を置いて観察出来そうな知識が得られそうな気がします。 オオイシ

○いいですね。お互いにこの歳になって少しでも読んだり、文章を書いたりすると少しはボケ防止になるのではと思います。私も「作人義久」を読み返しています。

アマゾンに頼んだ「島津四兄弟 九州統一戦」新名一仁著が昨日届きました。

「島津義弘 没後400年シリーズに寄せて」その二もぼつぼつ手をつけたいといけません。但し、先行き不明です。(笑)

今日は、鹿児島在住の兄弟姉妹、大明ヶ丘の姉夫婦、高麗町在住の妹夫婦、それに私たち夫婦の6人でランチ会でした。終わって、大明ヶ丘の義兄からカラオケに誘われて天文館・コロッケで2時間歌ってきました。八期会の新年会以来
クマモト タツオ

以下少し「四国旅行」関連応答：

○今夜15通投函しました。見積書の11日付けの最新版は総合計981,804円一人当たり54,545円となっています。364円UP(20名以上の団体割引が効かなくなった入場料等の値上げが原因)

なお、見積書はこの最新版を同封しました。 森

○6月19日安倍さんから電話がありました。

伊東さんと二人部屋でもいいけど丸野さんが良ければ3人部屋でもいいので丸野さんに電話をしたけど「使われていません」とコールされたそうです。携帯でも分かったら教えてくださいとの事です。

僕にメールで送ってくれたらLINEで安倍さんに転送します。よろしくお願い申し上げます。

尚、堀田さんと永野さんはツインでお願いしますとの事。男子は相部屋和室にしましょう。

木場さんにメールしました。木佐貴氏から電話がありました。

○当日の朝ワシントンホテルに泊まって天文館の林田前から空港バスに乗っていいのかなあと、言って来ました。いつも南国ビルの空港バスターミナルから乗るので分からないと返事したけどどうなの？朝7時発は天文館には寄らないような気がします。

○2019年6月16日(日) 11:30 大石慶二 <kjoishi3@gmail.com>:

この案内文章とツーリストから戴いた最終資料2部を同封して参加者への最終案内としたいと思います。

修正箇所があれば森くんまでお知らせください。

大石 6月16日朝

追) 案内文のうち、関西・関東の方で関空ご利用の方は……の文は不要かと思いますが・・・

追加料金の書き方にも分かりにくいのかな？と思いながら書きました。 おおいし

○大石さん。

中国映像旅行記 懐かしく 見せていただきました。ありがとうございます。

私も 1998年から2001年2月まで上海から 東西方向 約120km 江蘇省南通市というところに合弁会社 合織織布染色工場に出向していました。

今は 上海から 揚子江に橋が架けられ2時間足らずで 行けますが 当時は 揚子江を船で渡る手段で4時間ぐらいかかっていました。

(天候が 悪い時は さらに 岸辺で 待たされることもありました。向こう岸が見えない 川幅が 8kmもあります) 滞在中に 旅行記にあります 上海、桂林、北京、西安など 日本から 家族呼び寄せ 一緒に旅行したこと 懐かしく思います。桂林もそうですが 黄山など 本当に 墨絵の世界に浸ることが出来 貴重な体験ができたと思います。

大石さんの旅行記 懐かしく見せてもらいました。今は 改善されていますが 当時の 街中の公衆便所など我々日本人が 使用できるところは 少なかったことも 覚えています。

次の旅行記 楽しみにしています。

木場 祥雄

○大石アンサー

何とか20年前のパソコンの中の映像をさがしさがし作りました。

この映像の紀行記はひとり旅以前だったので『ケイジの中国ぶらり旅』には収録されてはならず貴重な映像になります。


『ケイジの中国ぶらり旅』の紀行記はこの翌々年の2001年「シルクロードの10日間」から始まります。

○西山アンサーバック

○珍しい体験ばかりでよかったですね！

共感できるのは町中の公衆便所、入り口の悪臭の壁でたじろぎ中に入ることができないほどでした。

○大石アンサー 　　ご丁寧な感想メールありがとう作り甲斐があります。

(3)は雲南省の大理からナシ族の麗江を経て南の石林を訪ねました。トンパ族の貴重な劇場や黄山  と似た奇岩が連なる石林など紹介したいと思います。

○土曜、日曜は相変わらず忙しいおじいさんです。今日、やっと見ることができました。

少数民族の多い国とは聞いていますが、なるほどと思いました。大理石が出るから大理という地名なのですね。これは初めて知ることです。

中国で聞く「北国の春」も日本を思い出していいものでしょうね。

「北国の春」がヒットしたあとに県の使節団として家内の合唱団が香港に行っていたことがありますが、その時も先方のリクエストで「北国の春」を練習して行って当日歌ったそうです。中国でも大人気の歌だったようですね。

中国は何処に行っても観光客も含めて人が多いですね。そして活気がありますね。

石林も文字通り石が林立していますね。これにも驚きました。

昆明みたいに都市の喧噪もまた中国の一つの特徴だと思います。なにしろ14億の国民が大きな都市には集中するわけですから、さもあらんと思います。

クマモト

○ 大石くんが中国に取り憑かれた気持ちがよく分かります。中国は全てが魅力的です。

○6月25日 10時 オオイシ

5月末から読み始めて今夜6月25日読み終わりました。

勉強のつもりで1ページ1ページ確認しながらでした。

いい知識を得ました。一枚岩と思っていた4兄弟の難しい関係を知ることでした。

いつか美術館に行ったら持明さまに手を合わせたいと思います。

龍伯義久の享年が79歳だったとは…

これから義弘を読み始めるつもりですが義久鼻眞にならないように気をつけたいと思っています。

島津家先輩のクマモトくんの見解は？

○6月25日 11時 西山アンサー

勉強のつもりで1ページ1ページ確認とは恐れ入り谷の鬼子母神。

4兄弟は面白いと思います

埼玉にマルエツというスーパーマーケットがあり4兄弟でした。大きくなるまでは4人とも仲良しでしたが、規模が大きくなったら1番目と3番目が組み、2番目と4番目の組に対抗し別のときには、1番目と4番目、2番目と3番目が組んだ。

やがて、ダイエー、そしてイオンの傘下に入りました。

義久・義弘は薩摩の歴史に最も多くの足跡を残しこの2人を語ることは薩摩の歴史を語ることになるでしょう。

○6月28日台風発生3号

島津義久の肖像画がないということが桐野作人にありますが、ほんとにないのでしょうか。そのことが薩摩島津氏の歴史の中で、義久がないがしろにされた？ ことと関係があるのでしょうか。

次弟の義弘が「二つの朝鮮の役」や「関ヶ原の島津の退き口」に代表される武勇によって大きく語り継がれていることなどがそうさせているようです。

義弘は「島津氏正統系図」によっても第17代当主とされているものの、最近の歴史家の研究によってはそうではなかったとすることがほぼ確定的に言われています。そして義弘を当主ではなかったとする前提での著作もあります。(川口素生「島津一族」)これは私がよく言っている「島津史観」と同じように「義弘史観」なるものが地元を中心に根強くあるのかもしれないですね。

四兄弟の仲が良かったというイメージにも根拠はなさそうです。仲が良かった、結束が固かったとかのイメージは近世になっての著作にあるもので、当時の史料ではそういうものはないという説もあります。(新名一仁)「島津義弘 没後400年」の連載はこれからも続きますが、その中で四兄弟がこれからどういう風にかかれるかにも注目していきましょう。伊作城跡にある四兄弟の誕生石にも行ったことがあり、ブログにも書いていますが、また行ってみたいくなりました。古市さんが帰ってきたときにでも一緒に行きましょう。新たな感慨が湧きそうな気がします。まだまだこれから勉強することが多そうです。

クマモト タツオ

○久しぶりの歴史切抜き添付します。

7月になりました。しばし雑談を…

ラストジャーニー四国旅行も2か月と少しに近づいています。天気には恵まれたいな。今日は・・・夜中から早朝にかけてスマホアラーム(4回)に驚かされましたが目覚めた今は日差しが見えます。

川の氾濫と崖崩れ、といえは86水害をどうしても思い出します。我が人生の中三大自然災害といえは小学校時代の「ルース台風」とこの「八六災害」です。あと一つは何だろう？

のうち三大慶事もあげてみたいけどすぐ出ないところを見ればないのかなあ。いくつかの合格の瞬間など記憶すらないのは残念だけど🙄

今日月曜日は昔から僕は休日です。

その時その時の自分を考える時でもあります。

他との約束ごとはしたくない日ですね。

みなさんはいかがおすごでしょうか？

○甲突川の激流をテレビで観て驚いていますシラス台地故、浚渫は行っているのでしょうか
パソコン画面とのにらめっこにこの数年、3度のおさんどんが加わり、少しは、腕も上がったかなあと
思う今日この頃です。西山 和宏

○ 全国ニュースで盛んに流されているように鹿児島は大雨で被害も出始めています。

県外の親戚からお見舞い(様子を聞く?)電話も入るくらいの雨になっています。これ以上の雨はいやですね。

知覧の地名についても、歴史的には深いものがあると改めて知ることでした。

このことだけでも、これだけのことを知りましたが、逆に言えば、それぞれの地名や事象などを調べるのがいかに大変なことかわかります。

新聞一つにもいろいろなヒントがあるものだと思います。できるだけ深読みをしないといけませんね。

先日来、八期メールに話題になっていた「曾我どんの傘焼き」のニュースが今朝の新聞に掲載されましたので、大石くんのネットに便乗させてもらって添付します。記事にあるように今年は磯海岸で開催されるとか。

今年は例年通り甲突川で開催されるのであれば、見学に行こうと思っていましたが、訳ありとは言え、磯の浜と聞いて行く気持ちが萎えてきました。 クマモト

○西山より。

大雨、本当に凄いですね、被害が少なければ良いと思っています。

蘇我どんの傘焼き、あれは神事だったのですか傘を3~4本燃やして、一般公開はなしまさに秘事にといいことですか 河川管理者はあまり先見性があるようには思われません。

早急に、旧来通りに復活します。

そんな見通しもできないとは鹿児島は未開の地、古臭い人間の集まりだとでも思っているのでしょうか。

明らかに鹿児島を見下しています。 蘇我どんの傘焼き今年は3~4本燃やして、一般公開はなしは本当です

か？ 全国的に知られるようにすれば観光で訪れる人も増えるでしょうに早晩、旧来通りに復活せざるを

得ないことになると思います

○